

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401814		
法人名	有限会社 みらい		
事業所名	グループハウス およりの郷Ⅲ		
所在地	長崎県南島原市有家町大苑1967番地		
自己評価作成日	令和 3年 10月 13日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 3年 12月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所要件で困っている方や、緊急性のある方を優先して入所を決定しています。寝たきりの方でも入所を受け入れています。主治医に関しては、当ホームの協力医に変更をお願いしているが、馴染みのある先生がいい方はその先生を優先させて頂いています。利用者様、御家族様にとって安心、満足して頂けるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは北に平成新山、南に有明海を臨み、敷地内には桜や柿の木・いちじく・いくり・さくらんぼなど季節の木々があり入居者の楽しみとなっている。ホームは入居者の状態変化時や介護方針を検討する際は、その都度職員会議を開催し職員間で意見交換を行うことで、入居者の現状や希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。ホームは協力医との連携体制が整っており、ほぼ毎日協力医の訪問があるなど入居者の体調管理に努めている。看取りへ移行した際も、本人・家族の希望に沿った最期を迎えられるよう主治医と協力し、ホーム全体で支援している。職員は入居者の日常生活の様子やホーム行事などを記載した手紙を毎月家族へ郵送することで、ホームへの理解を深めると共に家族の安心へと繋げている。入居者のこれまでの生活を大切に考え、入居者本位に検討するなど家庭的で温かなホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念である「のどか」「のんびり」「ゆったり」を大事にし実践に取り組んでいます。利用者の出来る事をサポートし自信を持って生活して頂けるよう努めています。	ホームの理念は各職員のロッカーに掲示してあり、職員は始業時に理念を確認し業務に従事している。職員は入居者が自分のペースで自由に過ごせるよう、その都度本人の意向を確認しながら支援している。仲の良い入居者同士で好きなコーヒーを飲み会話を楽しめるよう配慮するなど理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体とは顔見知りの関係は構築されていますが、コロナ禍の為外部との接触は控えさせていただいているのが現状である。コロナが落ち着いたならば以前のように介護相談やボランティアの受け入れ等再開し活動の幅を広げて行きたいと思っています。	ホーム職員が地域清掃に参加し、近隣住民と共に草刈りや道路の清掃をするなど地域との交流が窺える。地域住民より介護認定に関して相談があった際は、ホーム管理者が代理申請をするなど親身に対応することで地域の安心となっている。有事の際はホームが近隣住民の避難場所として活用できることを地域へ知らせており、相互に協力体制が整っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍の為外部との接触は控えている。 電話での相談等があれば答えています、少ないです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為外部との接触は控えさせていただいている為写真や広報誌を利用し分かりやすく伝わりやすいように努めています。電話等での質問にも対応出来るようにしています。	現在コロナ禍である為、運営推進会議は書面にて開催している。構成メンバーは地域包括支援センター・民生児童委員・家族であり、書面でホームの活動内容・入居者状況・面会状況を報告し意見交換を行っている。地域包括支援センターよりフラダンスや日本舞踊といった地域ボランティアの情報があるなど入居者の楽しみに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為電話でのやり取りが主になりますが包括と空き情報を共有し家族介護者様への相談支援に繋げています。	地域包括支援センターや社会福祉協議会へは、定期的に空き状況の報告を行っており、その際にホームの実情も知らせることで理解を得ている。島原地域広域市町村圏組合に請求業務やケアプランに関しての相談を行い助言をもらうなど、良好な関係性を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の日常の行動把握、身体機能の把握に努め拘束のないケアを実践しています。転倒リスクのある利用者様は御家族様に相談し居室、廊下等危険個所の整備をするなどし対応しています。また身体拘束に関する勉強会を定期的に行っています。	ホームは身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し身体拘束をしないケアに努めている。職員は認知症の症状により外出や帰宅願望動がある入居者に対して、行き先を聞き一緒に行動するなど、言葉での制限や行動を制限しないよう努めている。今年度は法人内研修「身体拘束はどういうものか」に参加し、身体拘束に対する理解を深めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはミーティングや職員会議を、通して情報の共有に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで活用した事はないが、機会があれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明、納得を図るようにしています。質問等があればお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームは入居者様個々を理解し御家族様と共に生活を支える方針で取り組んでいます。毎月担当職員から生活状況、行事、往診、受診等手紙にて報告させて頂き御家族様の不安解消に努めています。	職員は入居者の日常生活の様子やホーム行事などを記載した手紙を毎月家族へ郵送することで、ホームへの理解を深めると共に家族の安心へと繋げている。家族よりインフルエンザ・新型コロナウイルス予防接種状況や健康面に関する質問があり、その都度対応するなどサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者は、職員や利用者様と関わりを持ち運営状況の把握に努めています。職員が働きやすいと感じる職場環境作りに努めています。業務内容の改善効率化する事で高い意識を持って仕事に取り組んでいる様子が窺えます。	ホームは入居者の状態変化時や介護方針を検討する際は、その都度職員会議を開催し意見交換を行うことで、入居者の現状や希望に沿った支援に努めている。職員の気づきは連絡帳に記入し共有を図っている。職員の提案にて、トイレ誘導の間隔や緩下剤の調整を行い快適な排泄に繋げるなど、サービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善を図りやりがいのある職場になるよう取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加を促し個々のスキルアップに努めています。研修に参加出来なかった職員に対してはミーティング時に報告してもらい情報の共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場での交流はあるが相互の交流はない。勉強会は同一グループ間で行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様、御家族様、ケアマネ、医療関係からの情報だけでは把握しきれないところがある。会話や生活を通して把握するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様に信頼して頂けるよう関係作りに努め、何でも話して頂けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を見極め必要な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の症状によって関係を築ける方もいればできない方もおられるので、安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、御本人様、御家族様共に支えて行きたいと思っておりますが、御家族様に合わせる事が多く御本人様に沿えていない時もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様を囲む対人関係や生活環境の理解に努め御家族様の協力を得ながらこれまで大事にしてきた人や場所を繋いでいくように取り組んでいます。現在はコロナ禍で外出もままならないですが落ち着いてきたら以前のようにしていきたいと思っております。	ホームはコロナ禍に伴い面会制限がある際は、窓越しの面会や電話で話をする機会を設けるなど馴染みの人との関係継続の支援に努めている。入居者より墓参りの希望があった際は、家族へ働きかけ、家族もしくは職員により支援するなど入居者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は把握している。お互いに協力し支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもフォローしたいがほとんど相談がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々が生き生きとした表情で生活して頂けるようにすることが職員の役割である。入居者様や御家族様との関りを大切にしてその方が望む生活に繋がるよう支援しています。	ホームは入居者のこれまでの生活を大切に考えており、入居者本位に検討している。入居者より購入の希望があった際には、ホームから家族へ働きかけ購入に繋げるなど入居者の希望に沿えるよう努めている。支援方法を変更した際は職員会議にてフィードバックを行うなど入居者の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様より聞き取りをしても解らないことも多く会話で把握できる所はいいが、会話が困難な方もおられるので把握に時間がかかるのが現状である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の過ごし方、心身の状態や有する力の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議記録には援助内容を記録し、課題や現状を把握し次の計画に繋げています。御本人様や御家族様には分かりやすい言葉で支援の状況や今後の援助方針を話し合い御本人様、御家族様の意向に沿ったものになるよう努めています。	家族の意向は面会時や電話にて確認し、ケアプラン作成後は書面で援助内容の説明を行い同意を得ている。個人記録にサービス内容が記載しており、職員は毎日確認することで確実なサービスの提供に繋げている。職員会議時にカンファレンスを行い現状に即したケアプランになるよう努めている。ケアプランは6ヵ月毎と状態変化時、退院後に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時に入居者様のことで気づきや状態変化などの情報の共有に努め実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけニーズには対応し柔軟な支援ができるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍でもある為外部との接触は控えさせて頂いています。落ち着いたならばボランティア等の訪問など再開したいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の健康状態に変化があればかかりつけ医に状態を伝え適切な医療が受けられるように繋げています。	ホームは希望するかかりつけ医が受診できるよう職員が支援している。ホームにほぼ毎日協力医の訪問があり、また、昼夜問わず協力医へ相談できる体制が整っているなど入居者の体調管理に努め、体調不良時の早期治療に繋げている。個別に内服一覧表を作成し、変更時に記入することで変更した部分を明確にし誤薬防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師、訪問看護師にも相談し適切な医療、看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めています。良好な関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様、御本人様の意向を聞きホームでの看取りの希望があれば体制を整え対応していく体制はあります。	ホームは入居時に看取りの指針を説明し、本人・家族より同意を得ている。看取りへ移行した際は主治医が家族へ直接連絡し状況を説明されるなど、支援方針の決定や家族の安心に繋がっている。ホームは本人・家族の希望に沿った最期を迎えられるよう主治医と協力しホーム全体で支援している。重度化に対しては在宅酸素・点滴に対応可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等に参加し個々のスキルアップに繋がりたいがコロナ禍の為研修も少ない為ホーム内での勉強会等で実践力が付くよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	有事の際に迅速に対応が出来るように定期的に避難訓練を行っています。火災、地震、水害等を想定した避難訓練も実施しています。有事の際職員の判断が求められる為今後も継続して取り組んでいきます。	ホームは年2回夜間を想定した避難訓練を実施し職員の役割分担の周知を図っている。コロナ禍前は避難訓練に地元消防団の参加があるなど地域との協力体制を築いている。持ち出し品としての利用者情報一覧は避難先に渡す分とホーム職員が控えておく分の2部作成しており、避難先でのスムーズな対応に繋がるよう努めている。	自衛消防隊の組織及び役割分担表は作成しているが、職員の周知に曖昧さが窺えた。有事の際の迅速な対応に繋げるためにも、消防計画書の読み合わせなど定期的に確認することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様それぞれに合せた方法で意思の疎通を図っています。職員は入居者様との距離感に注意し砕けすぎず、かつ親しみやすいように関わるようにしています。	職員は方言を交えながらも、声の大きさやイントネーションに注意し、丁寧な言葉で親しみを持った対応に努めている。入居者に待ってもらう際は理由を伝え理解を得ている。不適切な言葉が聞かれた際はその都度職員間で注意し合い改善を図っている。トイレ誘導時は小声で対応するなどプライバシーに配慮している。	コロナ禍でもあり前年度より接遇マナー研修が実施できていない現状にある。今後、接遇マナー研修により自己評価や日々の振り返りを行うことで、更なる職員の接遇力向上に繋がることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ選択の機会を作り自己決定出来るようにに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿った支援が出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには注意していますが、重度の方が多いためおしゃれ出来ているかは、分かりません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には季節の物を取り入れ四季を感じて頂いています。入居者様に食べたい物を聞きメニューに取り入れれたりもしています。家庭的な雰囲気を感じて頂けるよう努めています。	献立は決定しているが入居者のリクエストに応じて変更可能であり、食事が楽しいものとなるよう努めている。年末には餅つきをして、入居者も一緒に餅を丸めたり、べったら餅を作るなど季節を感じることができ入居者の喜びとなっている。ホームはソフト食・ミキサー食・とろみ・一口大に対応可能であり、安全に食事が摂取できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を自分で管理出来ない方は職員が管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その通りに行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、入居者様の体の状態に合わせた誘導、排泄交換を行っています。	職員は排泄記録を確認しトイレ誘導をすることでトイレでの排泄に繋げている。職員会議にて支援方法の検討を行ったことで、オムツからリハビリパンツへ移行した事例やパットの種類を変更するなど入居者の自立支援と共に、不快感を与えないよう配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し投薬の他に食事や水分量のチェックや適度な運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が安心して気持ちよく入浴して頂けるように個々に合せた適切な介護技術で体を清潔に保ち気持ちよく入浴してもらえるようにしています。	入浴は週2回を予定しているも、入居者より希望があれば毎日でも入浴可能である。浴室には手すり・シャワーチェア・シャワーキャリーがあり安全に入浴できるよう努めている。冬至には3日間ゆず湯を準備し、匂いや季節感を楽しむなど入居者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースに合わせて安心して休んでもらえるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の効果や副作用を把握し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り、洗濯物畳み、食器拭きなど個々に合せ手伝ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為外出出来なくて申し訳ないと思っています。落ち着いたならばドライブや買い物など外出の機会を作って行きたいと思っています。	日常的に広々としたホーム庭の散歩ができ、入居者の気分転換となっている。池には鯉や亀、庭には柿や桜の木など季節の木々があり、入居者の楽しみとなっている。自宅で毎日夕食後に散歩をされていた入居者に対して、入居前と同じように日課に合わせて過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られた方ですが御家族様からお預かりしているお金で買い物をしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を介してですが、電話で話しをしたりしています。 手紙を書ける方がほとんどおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は障害物が無いよう広く取り清潔感を保ち気持ちの良い時間が過ごせるように努めています。玄関は施錠していないので敷地内を自由に散歩して頂いています。	リビングの掃き出し窓からは竹林やホーム庭の芝生を眺めることができ、入居者の気分転換となっている。リビングの一角には和室があり入居者が足を延ばしてゆっくり過ごしたり、洗濯物をたたむなど家庭的な空間となっている。精霊船や落ち葉、クリスマスツリーなど季節に応じた壁画を作成し、入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶を飲みながらおしゃべりができる空間作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や身の回りの物を持って来てもらったりしています。仏壇や趣味の物など継続して行えるように努めています。身の回りの物は高さや配置を考慮し自分で使用出来るようにしています。	馴染みの持ち込み品として、仏壇・テレビ・経本・こたつ・タンス・裁縫道具などがあり、居心地よく過ごせるよう支援している。車椅子を使用している入居者に対して、安全に移乗が行えること、普段使用するものは車椅子に座った高さから取りやすい位置に収納するなど家具の配置を工夫し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の生活同線を考え危険を予測し物品の配置に気を付けています。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ共有の理念を揚げ実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為外部との接触は控えさせて頂いているが挨拶はさせてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談は少ないが、電話での相談等あれば対応していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為現在書面での会議を行っている。意見等あればサービス向上に活かしたいがほとんど意見がない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域圏介護保険課や地域包括支援センターと連携を取り協力関係の構築につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為施錠しているが日中は施錠はしていない。身体拘束をしないケアを職員が理解し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で勉強し虐待が見過ごされないよう注意しミーティング等で情報の共有に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば活用し支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様が納得、理解して頂けるまで説明をおこなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様から要望、意見等があれば反映出来るようにしています。でも御家族様から意見等はほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、職員会議で意見、提案等ないか聞くようにし反映出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善や個々の勤務姿勢を参考にし整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加やホーム内での勉強会を行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は研修会の時だけである。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に御本人様、御家族様、ケアマネ、医療関係者から情報や要望等聞いているが不足のところがある。生活していく中で把握に努め安心して生活して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様に信頼して頂けるよう傾聴に努め何でも相談して頂けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を見極め必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との時間を作り一緒に過ごす事で安心して生活して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員から近況報告の手紙を書いてもらっています。御家族様と情報を共有し共に支えて行けるよう関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会は入居年数に伴い少なくなっています。コロナ禍でもあり面会は自粛させて頂いているのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、関係性は把握している。職員が間に入りサポートし協力しあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもフォローしたいがほとんど相談がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様本意であるように、希望、要望、の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や御本人様から聞き取りをしても解らない事も多くまた症状によっては意思の疎通が困難な方もおられるので把握するのに時間がかかる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活やミーティング、状態観察を行い、また職員からの情報等から把握するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、介助者の意見を反映し御本人様の出来る範囲で計画を作成するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に気づきや変化等情報を共有し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスだけにこだわらず聞ける範囲でニーズに答えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍でもある為外部との接触は控えさせて頂いています。落ち着いたならばボランティア等の訪問を再開したいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば入居前の主治医を継続して頂いています。希望がなければ当ホームの協力医を紹介しています。24時間対応させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護師等相談し適切な医療、看護が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と連携し情報交換を行い早期退院出来るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様、医師と話し合い出来るだけ希望に沿えるように体制は出来ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、勉強会に参加し個々のスキルアップに努めて実践力が付くよう努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い職員全員が避難方法を身につけられるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、プライバシーには配慮配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯の機会を多く作り出来るだけ自分で決めて頂けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	配慮させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業や食器拭き、下膳等手伝って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が食事量、水分量を管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その通りに行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄時間を確認し声掛け、トイレ誘導、排泄交換を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	投薬の他に食事、水分量のチェックや軽い運動等行って改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば随時入浴してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々に合せ居室誘導や不眠の方は内服薬を処方してもらったりし安心して休んで頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の効果、副作用を把握し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや食器拭き等個々に合せ役割を持って手伝って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様からの外出希望はほとんどない。職員から声掛けしドライブ等の外出をしています。現在コロナ禍の為控えさせて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られた方だけだがお預かりしているお金で買い物してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた方ですが、職員を介して電話したりしています。手紙は書けない方がほとんどである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、音、温度は調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	にゆっくりお話ししたりお茶が飲める空間作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様の馴染みの物を持って来てもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の生活同線を配慮し危険物を予測し配置には注意している。		